

特集

景観のチカラ

福岡の景観が作品に与えたもの

歴史と未来、自然と都市が混在する福岡市。その恵まれた特質とまちとしての個性は、作者の創作意欲をかきたてるようである。福岡が舞台となつている作品は数多い。さらに最近では、公的機関のバックアップによる、シテイセールス活動の活発化も相まって、映像作品において福岡の景観を目にする機会が増えてきた。映画、ドラマ、小説、歌……さまざまなジャンルで作者の視線と心情を通した景観は今までとは違った新鮮な表情に満ちている。そして、福岡（まち）への親しみと愛着をより深めさせ、新たな魅力を再発見させてくれるのである。



- 01 特集「景観のチカラ～福岡の景観が作品に与えたもの～」
- 07 第21回 福岡市都市景観賞受賞作品
- 11 第11回 福岡市景観エッセー
- 13 都市景観室事業・編集後記

彩都【さいと】
「彩」はかがやき、「都」は都市の意。人がかがやき、まちがかがやき、都市が彩られていく。そんな都市・福岡のイメージを表す。

映画「出口のない海」撮影風景。九州大学にて ©2006「出口のない海」フィルムパートナーズ

映画

Movie

スクリーン越しに感動の発見
見慣れた景観が別の世界に見える

近代的な都市空間と郷土色あふれる佇まいを併せ持った福岡市。そのまちの表情は、時間ごとに、季節ごとに、あるいは見る人の世代や心情によって、まったく異なった表情で語りかけてくる。新たな発見の感動を与えてくれる。多様な景観が、映像の多彩なバリエーションを実現させる。

福岡は主人公・さやかの故郷として登場する。出会い橋から望む那珂川の川面に映るネオンは、福岡ならではの景観のひとつで郷愁を誘うが、映画でも故郷に戻りホッとしているさやかの心情を表している。他にも、福岡空港やさやかの母親の入院先として九州医療センターでの撮影も行われた。



The parties concerned' comments

福岡のまちの空気感が
作品に深みとリアリティを
与えてくれた

「未来予想図」プロデューサー

藤田 義則さん

主人公は、地方から東京に出て暮らしている女性。さて、出身地は？と考えていた時、私の故郷である福岡はどうだろうと提案したのがはじまりでした。土地勘があるのはもちろん、言葉、人の性質や考え方がよくわかってるので、キャラクター設定や心情によりリアル感を演出することができると思ったのです。実際、福岡を舞台に脚本の手直しをしていく中で、シーンの一つひとつにびつたりの福岡の風景が思い描けましたし、登場人物の言葉遣いや態度にも細かなニュアンスを加えることができました。

最近の福岡はどんどん都会化して、中心部の景観は東京とほとんど変わらない賑わいを見せています。しかし、ちよっとビルの裏手に入ると昔ながらの佇まいを見せる住宅地があり、少し足を伸ばせば海や山の自然が広がっています。そして、何より人が元気で温かい。生活感のある都会と言ってもいいでしょう。景観の中に人の存在が感じられるのです。そんな福岡のまちの空気感が、作品に深みとリアリティを与え、見る人に共感をもたせていただけるのだと思います。



「未来予想図～ア・イ・シ・テルのサイン」

監督 藤野博 出演 松下奈緒・竹財輝之助 他 配給 松竹
公開 2007.10.6 [福岡での主な撮影場所] 福岡であい橋 他

DREAMS COME TRUEの名曲を映画化。ヒロイン・宮本さやか（松下奈緒）の恋愛を軸に、倦怠期のカップル、親子の絆を描く。世代を超えて共感できるハートウォーミングな作品。